

毎週一回、名古屋市中区新栄のあいちベンチャーハウスに、地元大学から学生や院生が集まっていく。とくに集合時刻が決められているわけではなく、毎週木曜日の午後の好きな時にやってきて、好きな時に帰っていく。

訪れた学生や院生は、所定の

編説

部屋へ行き、モバイルアプリケーションの開発作業を開始する。作りたい内容を自分たちで決め、それぞれに工夫を凝らし、それぞれのペースで構築していく。

行き詰った場合は、部屋にいる人に助言を求めることができる。あいちベンチャーハウスに

モバイルアプリ開発研究会

入居し、コンテンツ開発で実績を上げているクリエイターたちが、実践で培ってきた知識やノウハウを提供してくれるのだ。スタートしたのは昨年8月で、事業名は「次世代モバイルアプリ開発研究会」。入居企業からの発案から生まれた試みで、次世代型モバイル端末の登場・普及に対応し、新しい活用法の開発を通じて、モバイル時代の人材育成に貢献していくというものだ。

参加しているのは、名古屋大学、名古屋工業大学、金城学院大学、中部大学の学生や院生で、サウンドウォークジャパン、ブロッコパズルゲームのアプリ、名古屋大

リ、ブロッコパズルゲームのアプリの3作品。発表会には、大学やIT関連企業、行政などが出席し、学生ららしい発想の豊かさや、プロでも思いつかないような技術的工夫などが評価された。

参加するのは、名古屋大学、名古屋工業大学、金城学院大学、中部大学の学生や院生で、サウンドウォークジャパン、ブロッコパズルゲームのアプリ、名古屋大

今年度の研究会は1月27日終了するが、あいちベンチャーハウスでは内容を練り直し、4月からの新年度も継続実施する計画。大学側の期待も高いことから、新年度はこれまで参加者のなかつた大学や専門学校にも呼び掛け、このユニークな産学連携の輪を広げていきたい考えだ。

中間発表会では、アプリ開発を手掛けるベンチャー企業が「優れたモバイルアプリは、プログラマーによってのみ作られるものではない」と指摘。デザインやシナリオライターなど、いろいろな人が集まって完成させるべきだというのだ。この指摘には賛同する声も寄せられ、今後、多様な才能が結集する事業へと発展していく可能性を秘めている。

産学連携推進の新たな拠点に